

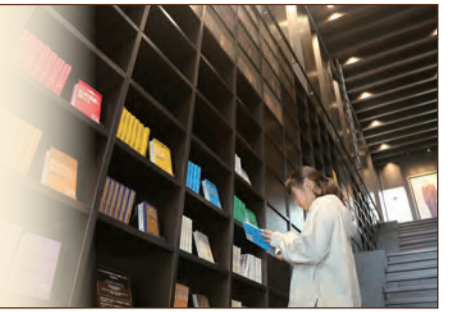


保護者の皆さまへ

鹿大だより

第28号

編集・発行 / 国立大学法人 鹿児島大学広報センター
〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号 TEL099-285-7035 FAX099-285-3854 E-mail: sbunsho@kuas.kagoshima-u.ac.jp



特集！移りゆく就活のカタチ

新型コロナウイルスの感染拡大は、以前からの企業の採用活動の早期化やインターンシップの浸透とも相まって、就職活動のあり方を変えていきました。鹿大生のキャリア形成や就職支援を担うキャリア形成支援センターの下田 智子課長に、就職活動の傾向とポイントを伺いました。

今年の就職・採用活動の特徴とは

学部3年（大学院1年）の3月から、企業への応募や採用説明会が解禁され、筆記試験も面接...という流れは昨年と同じですが、オンラインの進展により、選考ステップごとの特徴には変化が見られます。

例えば、昨年はオンライン面接の大半が個人面接でしたが、今年は集団面接やグループディスカッションも増えています。面接でも「コロナ下の活動制限に配慮し、学生時代に頑張ったこと」ではなく「在宅時間をどう使ったか」を問う企業もありました。「コロナの同じ条件下で、いかに前向きに過ごしたか」が今後問われるかもしれません。採用側も、実際に企業を訪れたことがない学生に対し、カメラを持って社内を回り、職場の環境や実際の社員の様子をライブで紹介するなど、入社後のギャップを埋めるため色々と工夫しているようです。

就活の始まりは...今!?

一方、全国的に学年不問の業界研究やインターンシップのための早期オンラインイベントが急増していることをご存知でしょうか。時間や交通費をかけるに参加できず、特に地方の学生にとってはメリット大です。早めには自社をPRし、意識の高い学生にアプローチしたいという企業側の思惑もあり、コロナ前から夏や秋冬のインターンシップ前などに開催されています。また、オンラインなら会場不要で全国の学生が参加できるため、年間を通して開催されています。その結果、早くから情報収集を始め、学内外のイベントやインターンシップに積極的に参加

するようになると、3年生の3月から腰を上げる学生では、スタート前から大きな差がついてしまっています。従来であれば、友達との何気ない会話の中に、自分も就職の準備を始めなくてはと感じるきっかけがあっても、コロナ下のSNSでのコミュニケーションが中心になると、踏み込んだ話はしづらくなりがちです。他の学生の動きが見えにくくなることで、ますます二極化が進む傾向にあります。学業がおろそかになつては本末転倒ですが、就職活動と構えるのではなく、低学年のうちから少しずつ、自分の将来に向けた準備（業界や企業、希望する職種等）についての情報収集や自己分析、社会人に求められる能力のうち現在の自分に不足している点の改善など、できることから取り組んでいただきたいと思います。

センターから学生の皆さんへのメッセージ

キャリア形成支援センターでは、共通教育の「かごしまキャリア教育プログラム」として、「キャリアデザイン」、「社会人基礎力演習」、「地域キャリア・インターンシップ」といった体系的なキャリア教育科目を提供しています。このプログラムの中核でもあり、地元企業・団体と連携して実施する課題解決型のインターンシップは、全学年向けの正課外の取組みを含め、学生が選ぶインターンシッププログラム「2021」で文部科学大臣賞を受賞するなど、高い評価を得ています。

また、こうしたキャリア教育に加え、低学年時から参加でき

る多様なキャリア支援イベントを企画・実施しており、就職やインターンシップ、進路に関する相談や情報提供なども年間を通して行っています。学生生活では学業・アルバイト・課外活動・趣味、就職活動と、同時並行すべきことが沢山ありますが、常に優先順位を意識して取り組むことが大切です。焦って何も手につかなくなつたときは、ぜひ当センターで相談してみてください。一緒に悩みや不安を整理し、前向きに取り組んでいただければ幸いです。

キャリア形成支援センターでは、共通教育の「かごしまキャリア教育プログラム」として、「キャリアデザイン」、「社会人基礎力演習」、「地域キャリア・インターンシップ」といった体系的なキャリア教育科目を提供しています。このプログラムの中核でもあり、地元企業・団体と連携して実施する課題解決型のインターンシップは、全学年向けの正課外の取組みを含め、学生が選ぶインターンシッププログラム「2021」で文部科学大臣賞を受賞するなど、高い評価を得ています。

Information

- パイロット志望者必見！日本航空（JAL）、日本エアコミューター（JAC）と連携協定を結び、操縦飛行体験プログラム「SKYCAMP」を実施しています。参加者の中から選ばれた2名が、JACの条件付内定者として環境面・資金面の支援を受け、パイロット資格取得を目指します。
- 共通教育棟1号館1階に、オンライン説明会や採用面接、大学院入試の面接などに利用できる専用個室ブースを設置しました。利用申込はキャリア形成支援センターまで。

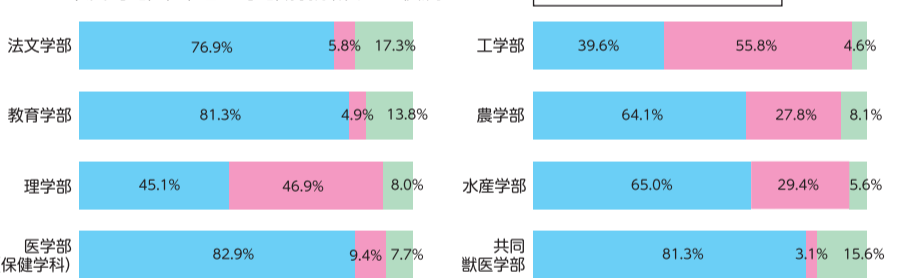


センターでは、この他にも対面またはオンラインで様々なイベントを実施していますので、右記のHPでぜひ詳細をご確認ください。

2020年度 学部卒業生の学部別・産業分類別就職状況

	建設・製造	情報通信	卸・小売	金融・保険	医療・福祉	教育・学習	サービス	公務員	教員	その他	合計
法文学部	19	31	32	37	15	8	31	113	8	35	329
教育学部	6	3	8	5	5	15	7	29	103	1	182
理学部	14	13	4	3	3	1	6	17	9	3	73
医学部(保健学科)					90			7			97
工学部	73	43	7	3	1	1	26	21		8	183
農学部	25	3	18	5	5	1	18	34	2	16	127
水産学部	21	2	30	3	3		13	12	2	7	93
共同獣医学部	1			6			11	8			26
全学部	159	95	99	62	122	26	112	241	124	70	1110

2020年度 学部卒業生の学部別就職・進路状況



専任教員のご紹介



キャリア形成支援センター 渡邊 和明助教

昨年12月1日付で、キャリア形成支援センターに着任いたしました。専門は「教育社会学」という分野です。当センターにて職業教育・キャリア教育を担当しています。本学における自身の目標の一つとして、キャリア教育をとおして学生の皆さんの「トランスファラブル・スキル（転用可能な能力）」の育成を掲げています。どの世界でも、どの職業においても共通して必要とされる能力の育成に尽力したいと考えています。



キャリア形成支援センター 浅田 隼平特任助教

当センターにて、主にインターンシップを担当しています。私が学生の頃、インターンシップは「一部の学生だけが参加するもの」という認識が一般的でしたが、今や学生にとって身近な活動となり、1〜2年次のうちに参加する学生も増えてきています。参加が当たり前になりつつあるからこそ、単なる職場体験プログラムではなく、学びが適切にデザインされたプログラムとしてのインターンシップを提供していきたいと考えています。

卒業生×在学生 社会人インタビュー



KKB(鹿児島放送) 報道情報センター 記者 卒業生: 小田 葉月さん (以下: 小田先輩) (法文学部法政策学科 2018年3月卒業)



法文学部人文学科3年 在学生: 小田 夏好さん (インタビュー兼、本記事編集)

マスコミ業界4年目の先輩へ、同じ業界を志す後輩がインタビュー＆レポートします！

◇マスコミ業界を志望した理由は？

小田先輩 私は在学時、憲法のゼミに所属していたので、社会問題を勉強することが多かったんです。世の中には多くの課題があることを知って、もっと自分の目で見て学びたいと思い、マスコミ業界を志望しました。

◇就活で一番苦労したことは？

小田先輩 都会の企業は特に、情報集めが大変でした。当時はZoomもなく、インターネットで調べられる情報にも限界があったので...。鹿大の就職支援センター(※1)で行きたい企業に鹿大のOB・OGがいるかを調べてもらって、ひたすら連絡をとって、先輩方には本当によくしてもらっていて、ES(※2)の添削から面接対策まで全部教えてもらいました。自分からどんどん行動しないといけないんですね。小田先輩は本当に行動力がすごいです...!

◇就活が本格化する前にやっておくべきことは？

小田先輩 自分が何をしたいのか、どんなことが好きなのか、もう一度見つめ直しておくと思います。それをはっきりさせておくと、面接での質問にも答えられますし、入社後のミスマッチがなくなりますよ。

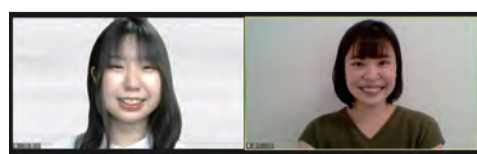
◇自己分析をしっかりとっておくことは？

小田先輩 そうですね。今でも、自己分析は本当に大事だったなと思います。仕事で辛いときやつらさを感じたとき、なんで就活でマスコミを受けたのかを振り返ると、「やりたいことのためなんだから頑張ろう」とって気持ちになるんです。不思議と。

自己分析は、就活で内定を頂くためにするというイメージがあったのですが、社会人になってからも自分の支えになるんですね。もっと自己分析を頑張ろうと思います。

(※1)就職支援センター2020年4月に改組し現在のキャリア形成支援センターとなりました。
(※2)ES:エントリーシート

この他にも、紙面に収まりきれない沢山のアドバイスがありました。気になる続きはWebにてご覧いただけます！



Zoomでの取材の様子



対面？ 遠隔？



高等教育研究開発センター 森 裕生助教

コロナ禍の授業

第27号の鹿大だよりのアンケートにて、学生たちの授業の状況を心配するお声が寄せられました。そこで、自身も1年生と多く関わる共通教育*1科目の授業を担当し、全学の教育改善に携わる、高等教育研究開発センターの森 裕生助教に、コロナ禍での授業の現状と教育現場で感じたことについて伺いました。

対面授業

「どのような授業で対面授業が実施されているのでしょうか」

まずは密を避けた上で、学生が講義室に収まる人数の科目であることが大前提となります。受講者数の少ない科目が対面授業を実施しやすい傾向にあります。また、対面授業では90分の授業時間のうち学生同士で話す時間が15分以下であること ②全員が不織布マスクをつけていること ③学生同士の座席が1m以上離れていること ④3つの条件を満たす必要があります。実習や語学は特に、対面授業の方が習得しやすいでしょうから、今年度は基本的に対面での実施が多いようです。

対面授業を実施する際に行っている感染対策

- 3密 (密閉・密集・密接) の回避
 - 密閉空間にしないための換気の徹底
 - 密集及び密接を避けるための配慮

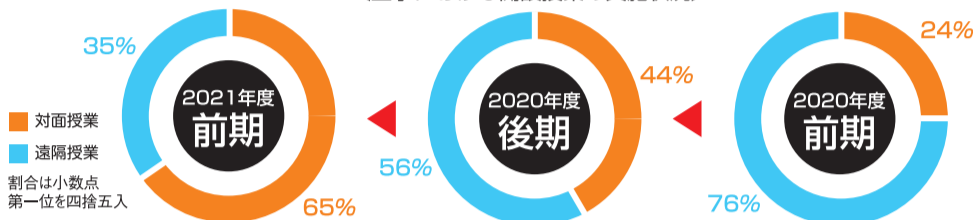
- 体調不良者の確認及び受講禁止
- 咳エチケットや手洗いなどの基本的な感染症対策
- 海外渡航者及び留学生への対応
- 鹿児島県外に移動した学生への対応

保健管理や衛生管理面の対応

- 教室の消毒作業
- 教室にアクリル板設置
- 各所にアルコール消毒液を配置
- 注意喚起のポスター掲示
- 座席間隔を空ける

その他

【全学における開設授業の実施状況】



「対面授業の割合は増えているのでしょうか」

2020年度前期で24%であった対面授業の実施率は、2021年度前期で65%となり、体感としても増加してきていると感じています。前述した実習や語学、人数の少ない専門科目などを中心に、対面授業が実施できたのではないかと考えられます。反対に、いわゆる座学形式の科目については遠隔授業が中心となったのでした。2020年度後期には、対面授業をするスクリュー期間(*2)を設ける取り組みも行われました。例えば、私の担当していた共通教育の「初年次セミナー」という科目であれば、30人程度のクラスでしたので、スクリュー期間中は学生を半数ずつ週替わりで対面にしましたね。その週は、対面を活かせるようにプレゼンテーションの授業を行いました。

*1 共通教育：専門分野を問わず、一人社会人として重要な基礎的能力を身につけるための教育。
 *2 スクリュー期間：学生にキャンパスを訪れてもらい、対面授業や学生同士の交流などができる取り組みを行う期間のこと。後期授業期間の前半及び後半にそれぞれ2週間程度設定し、実施されました。



遠隔授業

「遠隔授業にはどのような特徴がありますか」
遠隔授業は大きく分けると、リアルタイム型とオンデマンド型の2種類があり、いずれも対面授業における、受講者数と教室のキャパシティによる制限の問題を解決することがあります。また、コロナ禍で入国できなかった留学生にも対応できるという点に、どこにいても受講できるメリットがあります。

リアルタイム型は、1度きりの講義となりませんが、教員が授業スライドを学生と共有して説明するなど対面授業と似たような授業が可能です。本学では、Zoomを導入しています。Zoomは全体での教員から学生に向けての授業だけでなく、小グループに分かれて学生同士で議論することもできます。講義室に集まり場を共有しているという感覚は対面授業と比べ確かに薄いかもしれませんが、活動としては対面授業とさほど変わらないことができます。コロナ禍を経て場を共有することに對する考え方や概念が変化していくかもしれませんね。

オンデマンド型は、インターネットへアクセスし、既に録画された講義動画を視聴する形式です。学生間で相談する機会が少ないため、孤独な学習となってしまう一方、該当の週のうち、いつでもどこでも何度でも、好きなときに視聴することができますという特徴があります。対面授業やリアルタイム型の授業では、先生の話は基本的に1度しか聴けません。オンデマンド型の場合、苦手な箇所だけを集中的に繰り返し視聴することが可能です。これは、特に基礎知識を学ぶような授業において、大きなメリットとなるでしょう。

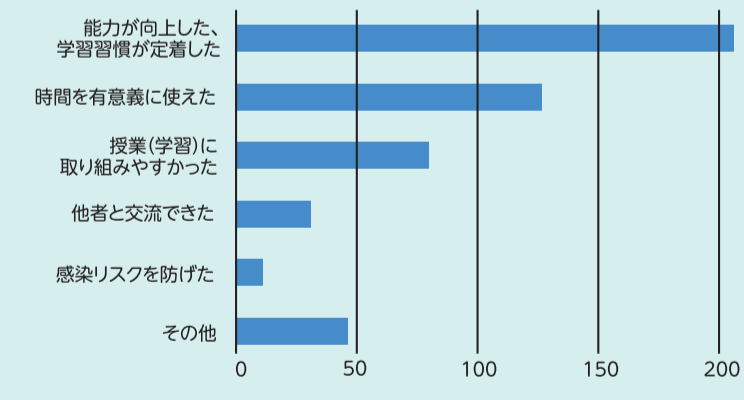
「遠隔授業でもしっかりと学習できているのでしょうか」

2019年度と、コロナ禍の影響を受けた2020年度とを比較し、同じ授業を受けた学生の間でスキルの獲得に大きな差が出たかという点については、感じません。内容にもよるとは思いますが、少なくとも私が担当した科目において差はみられませんでした。学生からの授業内容への質問という点では、遠隔授業のほうがしやすいように、質問を受けられる回数が増えました。対面授業でも、授業後にわからないことを質問に来る学生は多くありませんでした。

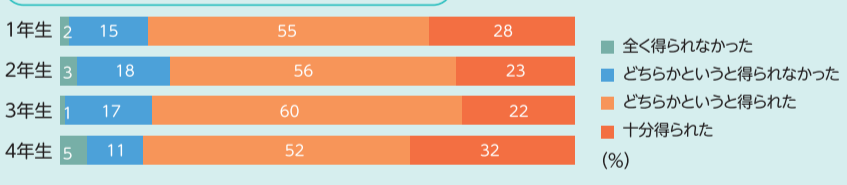
ただ、遠隔授業が始まってからは、学生も自分で時間をコントロールしやすくなりましたので、各学生間の頑張りや差がでやすくなったように感じています。対面授業であっても、もちろん個人差はありますが、遠隔授業ではより二極化が進みがち傾向があるように感じました。そうならないような授業をデザインするよう心掛けていきます。

2020年度後期末 「遠隔授業に関するアンケート」集計結果より

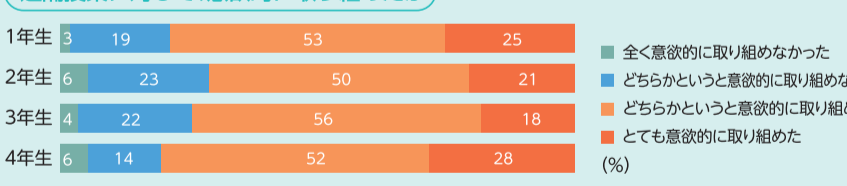
遠隔授業を受講してよかったことや自信になったことは



遠隔授業を通して知識や能力は得られたか



遠隔授業に対して、意欲的に取り組めたか



教育現場からのメッセージ

「今後目指すべき授業とは」

対面には対面の、遠隔には遠隔の良さがあります。コロナ禍は、これらを組み合わせるハイブリッド型の新しい授業形態へと転換するきっかけになったと言えるのではないのでしょうか。授業内容や先生の得意な授業スタイルに応じて、バランスよく対面授業と遠隔授業を組み合わせていくことが大切だと思います。

「学生に伝えたいこと」

コロナ禍の環境や状況は自分の力だけで変えられないことでもあります。だからこそ「今」置かれている環境の中でどうベストを尽くしていくかという考え方を考えてほしいと思います。例えば、本日は語学留学がしたいのに、なかなかその計画が立たない人もいます。しかし、「今」は一生懸命に英語や語学を学ぶ時間にしてみると、語学が上達し、本来留学に行こうと思っていた時期に語学留学ではなく海外インターンシップに参加できるかもしれません。

学生の皆さんが、この状況で思うような活動ができなくて悩んでいることも伝わっていますし、私自身も胸が痛みます。それでも、大学生活というものは2回、3回とあるものではありません。少し長いスパンで、10年後、20年後の自分を考えながら、自分が今できることを考えてほしいと思います。

「保護者の方へメッセージ」

学生は自分から悩んでいる姿を見せないことが多く、教員から声をかけて初めて、悩みを話してくれるというケースもあります。保護者の皆様におかれましては、学生と一緒に住まいの方、遠隔地から鹿児島へ送り出している方、様々かと思えます。一緒に住まいの方は「大学とつながったお声掛けを、そでない方は電話やLINEなどのツールで定期的にコミュニケーションをとっていただき、一丸となって支援をいただきたいと思います。



高等教育研究開発センター
https://www.kagoshima-u.ac.jp/higheducenter/report/fd.html

学部トピックス

9学部のいま

各学部の広報委員の先生方に、学生の活動をレポートしてもらいました。学生たちの頑張る姿をお届けします！

法文学部

「まちづくり論」の受講生が鹿児島市長に政策提言

「まちづくり論」では7月15日に下鶴 隆央鹿児島市長を招いて「市長と語る会」を開きました。今年は危機管理課、喜入支所、産業支援課による講義とワークショップ、学生のプレゼンテーションに加え、職員の方々との現地視察も行いました。こうした学習を踏まえ、6グループが市長を前に具体的な政策提言を行いました。テーマは災害対策、喜入地区の地域おこし、天文館の活性化です。下鶴市長からはそれぞれの提言に対して踏み込んだ質問や意見が出され、活発な議論が行われました。参加学生の感想を紹介します。

佐藤 麻衣さん(人文学科2年)「市長を前にしたプレゼンは緊張しましたが、若者向けの戦略をしっかりと提言でき、ほっとしました。」

大窪 悠莉さん(同3年)「市長が私たちの意見を真剣に聞き、コメントしてくださったのが嬉しかったです。」

(記:法経社会学科教授 中島 大輔)



受講生と下鶴市長との意見交換

「教師になりたい」から「教師になる」と決意を新たに

教育学部

教育学部では、教師を目指す学生をサポートするために、教職支援室を設置し、教育現場や教員採用試験などに熟知したスタッフが常駐しています。教職に関すること、採用試験にむけての具体的なアドバイスなど、学生の「教師になる」という意識を高めてくれます。「学部学科を問わず多くの人が利用していたため、自分の考えをひろげることができた。」「自分の予定に合わせて利用できた。」「卒業生がZoomで参加してくださり、議論の進め方や勉強の進め方などを教えていただいた。」など、コロナ下においてZoomで個人面接や集団面接の練習に取り組む学生の声が聞かれました。

2次試験直前の8月は、延べ800人を超える学生の利用がありました。学生にとって「教師になりたい」から「教師になる」と決意を新たにしているようです。

(記:社会科准教授 佐藤 宏之)



教職支援室スタッフによる面接指導の様子

理学部

サイエンスクラブ活動 -目指せサイエンス・インカレ-

理学部では、1年生から3年生を対象に、課外での研究活動を行う「サイエンスクラブ」を実施しています。研究が進むと、文部科学省が主催する「サイエンス・インカレ」への参加・発表を行うこともあります。今回は、サイエンスクラブの様子をレポートします。

8月、理学科1年生が酵母に関する研究を行っていました。農学部との共同研究で、暑い中、理学部-農学部間を行き来しながら実験していました。写真は、大学院生のアドバイスを受けながら、顕微鏡で酵母の様子を観察している様子です。コロナウイルスの影響でその後、理学部では8月いっぱい学生の研究活動停止期間がありました。9月以降、感染防止対策を行いながら研究活動を進めてまいります。

(記:理学科物理・宇宙プログラム准教授 三井 好古)



顕微鏡を使って成長した酵母を観察・評価しています。

コロナ禍の外科ポリクリ(臨床)実習

医学部

医学部5年生のポリクリ(臨床)実習はコロナ禍により内容の変更を迫られました。患者との接触を減らすため様々なことが制限される中、外科の学習機会を担保し、魅力を伝えたいという思いから、手術室見学ツアーを開始し、レクチャーや縫合実習の充実を図っています。学生はまず術前カンファレンスに参加した上で、手術当日は担当外科医とともに手術症例のポイントをおさらいした後、4~6室の様々な手術室を順次回ります。各手術室では解剖や術式についての解説や質疑応答を行います。「様々な臓器の手術見学ができて良かった」「術前・術中の説明で多くを学べた」となかなかの反響です。レクチャーでは各臓器の専門家から生の臨床を学べます。縫合実習も研修医になった際に即実践できるように指導しています。コロナ禍でも実習生の表情は生き生きとしています。

(記:鹿児島大学病院 消化器センター医員 田辺 寛)



手術室見学ツアーの様子

歯学部

COVID-19 禍中の歯学部教育

COVID-19対策として、歯学部でも昨年度頭から対面形式授業の全面中止を余儀なくされましたが、徹底的な感染対策を講じることによって全国の他大学歯学部にも先駆けて対面形式授業を再開させることができました。その後、蔓延状況の悪化の度に、実習の規模の縮小や対面形式授業の一時中断をせざるを得なかったものの、教育カリキュラムに重大な支障を来すことなく参りました。5年生後期から6年生前期にかけて実施する臨床実習は、歯学部教育の中でも特に重要なもので、学生・教職員が大学病院に来られる患者の皆様と密に接触することを避けては成立しませんが、厳格な感染対策の下に行うことで院内感染者を出すことなく実施できています。COVID-19禍の先行きが見通せない中ではありますが、引き続き気を引き締めながらより良い学修ができる環境を整備して参ります。

(記:口腔生理学教授 齋藤 充)



厳格な感染対策下で実施されている臨床実習

2021 年度前期のある工学部学生の日

工学部

○月×日 はれ
朝 しまった、朝寝坊。1限ないから油断した、、
2限 専門科目の授業。今年は、ほとんどの専門授業が対面になった。広めの教室で間隔あけて座るけど、友達と毎日会えるのはうれしい。
昼休み 次が実習なので、教室でおにぎりを食べる。
3-4限 専門科目の実習。今日は屋外実習、装置を使うと工学部に来た実感が湧く。みんなで作業するのでチームワークもUP!



今日は測量実習の日、みんなで協力してガンバリます!!

5限 工学部共通科目。他学科の先生が分野外のことを教えてくれる、ちょっとお得? 他学科の学生が多くて新鮮な感じ。
放課後 今日はサークルの日。楽しい! 去年できなかった分を取り返そう。あ、終わったら実習のレポート書かねば、
というわけで、今年度前期の工学部はかなり対面授業が増えています。社会情勢に柔軟に対応して、学生が工学に邁進できるようにこれからも工夫していきます。

(記:先進工学科教授 橋本 雅仁)

農学部

対面授業の大切さ

非常に残念ですが、コロナ対応も2年目となりました。教員も学生も授業の対面・遠隔の混在にも慣れ、比較的順調に進められています。農学の基本は実学ですので、何でも遠隔というわけにはいきません。前期の農学部授業形態は7割以上が対面でした。農林水産学研究所に4月、東京から入学した院生の吉田 滯さんは「昨年、東京の大学では全面オンライン授業で入校制限もあり、卒業研究も教員指導の元で、ほとんど自宅で行っていました。鹿児島大学では修士研究が自ら出来るようになり、同じ研究室の院生と学部学生同士がお互いの研究を理解・協力し、効率よく作業する姿を見て、主体的に、自主的に、そして協調することの大切さを強く感じました。」と感想を述べています。どのような時代でも対面で教える、教わることの重要性は変わらないと信じています。

(記:附属農場教授 遠城 道雄)



雄大な桜島を背にマスクをしての田植え実習

コロナ禍に負けない教育・研究を進めています!

水産学部

コロナ禍ですが、学生の研究活動は停滞させてはいけません。それが犠牲になることは責任ある教育機関として一番避けなければならないことです。ではどうすれば科学的に正しく感染予防しながら研究活動を継続できるのでしょうか。水産学部では一人一人の確かな行動が一番重要だと考え、その浸透を図っています。また、学生と教員が話し合い試行錯誤しながら可能な範囲でリモート化を進める一方、十分な感染対策を取れる場合には講義室や実験室、野外フィールドでの研究や教育活動もしっかりと進めています。水産学部は海から食料資源を取り出すことを最終目的とするダイナミックな学部です。リモートだけでは学べないことがたくさんあります。知恵と工夫を凝らしながら、これからも感染症対策と高いレベルの教育・研究の両立を模索していきます。

(記:水産経済学教授 佐野 雅昭)



洋上に浮かぶ最先端の大規模養殖施設での調査

共同獣医学部

馬は大きな伴侶動物。ヒトとともに生きる。

共同獣医学部の学生は卒業までに多種類の飼育動物の診療技術を身に付けなければなりません。馬もそのひとつですが、日本では馬の診療を専門とする獣医師が少なく、馬専門の教員が0名という獣医系大学もあります。共同獣医学部には馬の診療を専門とする教員(獣医師)が3名所属していて、馬の外科系や内科系の診療技術を詳細に教えています。すべての学生は、馬診療学の講義で学んだ知識を伝えるように、少人数グループによる馬の参加型臨床実習を5週間行います。馬の取り扱いから、飼養管理、問診、身体検査、採血、内視鏡検査、X線検査、各種治療法、さらには乗馬体験などの多岐にわたります。「犬と同様にヒトとのコミュニケーションを取ることが馬に触れてわかった」と学生は話していました。欧米では、馬は伴侶動物として扱っています。

(記:獣医学科教授 三好 宣彰)



馬の朝の診察(参加型臨床実習)

大学の研究室って
どんなところ?

研究室から

絵画研究室

指導教員：桶田 洋明 教授 (教育学部美術教育科)
所属学生 (2021年度)：修士2年生1名、学部4年生6名、
3年生3名、2年生(仮所属)2名 (計12名)

美術作品を生み出すのは、体力的にも精神的にもハードな作業。でも、それを越える楽しさがあります。今回は、学生に絵画の技術と魅力を教え指導する、桶田 洋明教授の研究室へお邪魔しました。



▲研究室での指導風景

学ぶのは「絵画制作」と「教える技術」

絵の具には様々な種類があり、それぞれの種類に応じた技法が必要です。複数の種類の絵の具を組み合わせる「混合技法」という技法もあります。学生は、自分の狙い通りに描くため、日常的に絵画を制作し技法を身につけます。加えて教育学部生ですので、教え方を学ぶことも必要です。そのための授業もありますが、当研究室では、学生が講師を務める地域

の方向けのワークショップを開催し、そこで人に教える経験を積むことを大切にしています。

絵画の楽しさとは

絵の上手・下手は、案外なんとでもなるものです。それよりも大事なのは持続力。持続力がないとその絵を仕上げることができない。これは、絵画を通して得られる力のひとつだと思います。また、作品を発表し、コンクールに出すことを通して、学部学生であっても評価され、賞をもらうことができるのも、絵画ならではの楽しさでしょう。コンクールは複数あるので、何度もチャレンジすることで自分の絵も上達していきます。

卒業後の進路は

進路は様々ですが、やはり美術教員になる学生が多いです。よい美術教師にな

るためには、自分自身が美術の楽しさを知っていなければいけません。特に絵画は美術の基幹ですので、制作を通して楽しさを体感してほしいです。他にはデザイン関係の会社や公務員といった進路を選択する学生もいます。仮に教員にならず別の進路に進んだとしても、絵を描くことはこれからもずっと続けてほしいと願っています。



▲堀之内さんの作品「imagine」
第39回南日本女流美術展で特選を受賞

研究室で学ぶ 学生の声



教育学部
美術教育科4年
堀之内 彩七さん

中学、高校と美術が好きで、絵画を学ぶために鹿大の美術教育科に入りました。私の高校の美術の先生は桶田先生の教え子だったそうで、楽しく学んだ体験も聞いていました(笑)。

研究室での活動で一番思い出に残っていることは、「TOU展」という展示会を主催したこと。この展示会は昔の学生が自主的に発案したもので、17年経った今でも、絵画研究室の2、3年生で力を合わせ、自分たちで全ての準備を行い開催しています。会場の予約や宣伝をしたり、展示のレイアウトを考えたり…。絵を描き終えてから発表するまでの大変さを初めて知ることができました。お客さんから直接感想を貰える機会にもなり、大変ではあったのですがとても楽しかったです。

卒業後は高校の美術教諭になって、子どもたちに美術の楽しさを伝えつつ、自分自身も子どもから刺激をもらって絵画制作を続けていきたいです。

■HPで本学教員の
研究内容等をご紹介!
「研究一直線」をぜひご覧ください。
<https://www.kagoshima-u.ac.jp/researcher/>



COLUMN 最近の留学事情

置かれた状況を創造的機会と捉え、 できることを最大限に!

2020年初めから続くコロナ禍は、私たちの想像を遥かに超えて長引いています。この間海外研修や留学は中止とな

りましたが、今年8月から、文部科学省は大学間交流協定等に基づく9ヶ月以上の海外留学について、外務省の感染症危険情報レベル2又は3の場合(COVID-19の影響による)でも、大学の認可と渡航学生の責任の下、奨学金給付を再開しました。これを受けて、本学でも条件を満たす海外留学を順次開始しています。9ヶ月未満の短期渡航は未だ自粛が要請され、海外研修は再開できませんが(8月現在)、この状況を創

造的に活かし、海外大学生と学ぶ国際的な授業-オンライン国際協働学習(COIL: Collaborative Online International Learning)やオンライン海外研修も提供しています。これらの授業では、海外大学生とSNSで繋がり、閉塞感に共感しながら国境を超えたニューノーマルのネットワークを軽々と実現する学生も多く見られます。留学準備も、オンライン活用も、できることを進めてみませんか。

鹿大の 主な出来事

2021年4月
~2021年9月

● 新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種を実施
6月24日~9月30日にかけて、新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種を実施しました。本学の学生・教職員及び構内で勤務する全ての構成員を対象とし、鹿児島大学病院の医療従事者が接種を担当、接種会場では、本学職員(骨子案)に当たりました。7月末には鹿児島県内の教育機関の学生・教職員

● 法文学部×工学部「かごしままちづくりビジョン for 2040」報告書を作成
法文学部及び工学部の4ゼミ・研究室は、鹿児島市の「第一かがしほ市都市マスタープラン(骨子案)」について考えるワークショップを学部の垣根を超えて実施し、活動を総括する報告書を作成し

▲接種の様子

▲学生アルバイトスタッフも大活躍!

へも接種対象者を拡大し、地域の医療に貢献しました。

鹿大の 主な出来事

2021年4月
~2021年9月

● 新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種を実施
6月24日~9月30日にかけて、新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種を実施しました。本学の学生・教職員及び構内で勤務する全ての構成員を対象とし、鹿児島大学病院の医療従事者が接種を担当、接種会場では、本学職員(骨子案)に当たりました。7月末には鹿児島県内の教育機関の学生・教職員

● 法文学部×工学部「かごしままちづくりビジョン for 2040」報告書を作成
法文学部及び工学部の4ゼミ・研究室は、鹿児島市の「第一かがしほ市都市マスタープラン(骨子案)」について考えるワークショップを学部の垣根を超えて実施し、活動を総括する報告書を作成し

▲接種の様子

▲学生アルバイトスタッフも大活躍!

へも接種対象者を拡大し、地域の医療に貢献しました。

鹿大の 主な出来事

2021年4月
~2021年9月

● 新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種を実施
6月24日~9月30日にかけて、新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種を実施しました。本学の学生・教職員及び構内で勤務する全ての構成員を対象とし、鹿児島大学病院の医療従事者が接種を担当、接種会場では、本学職員(骨子案)に当たりました。7月末には鹿児島県内の教育機関の学生・教職員

● 法文学部×工学部「かごしままちづくりビジョン for 2040」報告書を作成
法文学部及び工学部の4ゼミ・研究室は、鹿児島市の「第一かがしほ市都市マスタープラン(骨子案)」について考えるワークショップを学部の垣根を超えて実施し、活動を総括する報告書を作成し

▲接種の様子

▲学生アルバイトスタッフも大活躍!

へも接種対象者を拡大し、地域の医療に貢献しました。

INFORMATION

● 鹿児島大学公式HP

● 広報誌
「鹿大ジャーナル」

● YouTube
鹿大チャンネル

● 広報センター
Instagram

【編集後記】広報センターより
今号から鹿大だよりの編集を担当することになりました。1面の卒業生×在学生の対談企画は、記事以外にも面白い話が盛り沢山だったので、全編をWeb上でご覧いただけるようにしてみました。どんどん盛り上がっていくお二人の就活本音トーク、必見です!次号4月号は、鹿大生のキャンパスライフの紹介を検討中ですので、気になることがございましたらアンケートでお寄せください。

※本紙の送付にあたっては、学生が学務Webシステムに登録している住所データを利用しています。住所変更時や送り先の変更をご希望の場合は、学生に変更手続きを行うようご連絡ください。住所を含む学生情報の変更は、学生本人のみ行うことができます。

クラシックギタークラブ Clubs

61名 (男子36名、女子25名)

サークル紹介

部員数は4学年合わせると61名で、学年を越えてとても仲の良いサークルです!基本的には4つのパートに分かれて日々練習しています。初心者の子も多いため、気軽に始められますよ!部員全員で一つの音楽を作り上げた時の喜びをあなたも一緒に感じてみませんか?/主将:村本 蘭さん(教育学部2年)

動物ボランティアサークル AniPro 101名 (男子27名、女子74名)

動物愛護イベントで出店した時の様子▲
約100名の動物好きが揃うAniProは、犬猫の譲渡会や動物愛護イベントでボランティア活動をしています。イベントでは迷子札や猫じゃらしのワークショップを開くこともあります。動物と触れ合い、動物に関わる活動をしたいという方はぜひAniProへ! /副部長: 田崎 美有さん(共同獣医学部3年)

居合道同好会 9名 (男子4名、女子5名)

居合道という言葉は聞きなじみがないかもしれませんが、簡単に言うと仮想敵を斬る武道になります。部員9名の中に初心者も多く在籍しています。居合道は団体ではなく個人競技なので、黙々と自分の技を磨いていきます。自分の努力次第で如何様にもなれる奥の深い武道です。/主将: 永利 優以子さん(農学部3年)